

第2回紀の川市長期総合計画審議会 議事録

資料①

日時/会場		令和7年10月29日（水） 13:30-15:15 / 本庁舎3階 庁議室
出席者	紀の川市	伊藤会長、東副会長、井上委員、福田委員、大西委員、谷脇委員、中迫委員、加藤委員、林委員、中村委員、新谷委員、赤坂委員、船津委員、谷川委員、中谷委員、山田委員、道場委員、梶川委員 欠席：青木委員、佐久間委員、野村委員、庄司委員
	本国会	企画部：栗本
	事務局	紀の川市：東、増田、西端、辻、北山 受託業者：現地/石堂、眞鍋 オンライン/井上、坂井
議題		1. 開会 2. 議事 3. 閉会
資料		<ul style="list-style-type: none"> ・ 第2回審議会次第 ・ 【資料】審議会名簿 ・ 【資料】審議会委員ご意見お伺いシート ・ 【資料】第1回審議会議事録 ・ 【資料①】基礎調査報告書（速報版） ・ 【資料②】市民アンケート結果報告書（速報版） ・ 【資料③】審議会委員の課題意識集約シート ・ 【資料④-1】計画策定で取り組む意見聴取方法と長期総合計画への反映 ・ 【資料④-2】未来共創ワークショップ ・ 【資料④-3】こども未来会議 ・ 【資料⑤】令和7年度のスケジュール ・ 【資料①修正】紀の川市_基礎調査（速報版）_正誤表

■ 議事内容

1. 開会

※事務局より欠席者、配布資料等について説明した。

(1) 前回議事録の確認

※委員の皆様から議事録の内容確定に了承いただいた。

【事務局】

確定した議事録について、ホームページで公開予定である。ホームページでは、発言者の氏名は伏せて公表することを予定している。

(2) 提出いただいたご意見お伺いシートについて

※事務局より第1回審議会時に提出いただいたご意見お伺いシートについて事務局の回答を説明した。

【委員】

自身が計画策定を行った経験から、KPIを詳細に設定すると事務局の負担が増加するため、必要以上の作り込みは不要であることを事務局に伝えたかった。

2. 議事

(1) 基礎調査結果について

※事務局（受託業者）より「基礎調査結果」について説明した。

【委員】

比較対象団体は近畿圏のみか確認したい。

【事務局（受託業者）】

紀の川市が取組を進める中で参考としている近隣の自治体や、人口規模や産業構造に近い自治体を選定しており、結果的に近畿圏の10自治体を比較対象団体とすることとなった。

【委員】

医療・福祉分野について、他分野と比較して調査項目が少ないため、もっと多くの項目を調査してほしい。

【委員】

観光の観点から、交流人口の増加が関係人口の増加につながり、結果として定住人口の増加につながると考えている。そのような調査項目・データがあるとわかりやすいと思うが調査可能か確認したい。

【事務局（受託業者）】

交流人口や関係人口のデータの有無を確認し、データがない場合は代替のデータの有無も含めて整理する。

【委員】

紀の川市の特徴として、人口密度が低いこと、農業が盛なこと、働いている高齢者が多いこと、小学校あたりのこどもの数は少ないこと、要介護の人が多いこと、持ち家が多いこと、比較対象団体と比べて財政的には弱いことがあげられると理解したが、相違ないか確認したい。

【事務局（受託業者）】

認識に齟齬はない。

(2) 市民意識調査結果について

※事務局（受託業者）より会議内容（2）「市民意識調査結果」について説明した。

【委員】

問8と問9は、同じ質問内容であるため、現在と未来のギャップがわかるようなまとめ方を検討してほしい。

【事務局（受託業者）】

今後ご意見を踏まえて分析を実施する。

【会長】

速報版であるため、詳細な分析は今後実施するということをご理解いただきたい。そのうえで、分析作業の参考になるようなご意見やご提案をいただけるとよいと思う。

【委員】

次回審議会までに、属性ごとの分析を実施されるということで、居住年数が「2年未満」と「5年未満」と回答した方の紀の川市のイメージを詳細に分析してほしい。転入者が紀の川市にどんなイメージを持ち、どのようなことを望んでいるのかがわかるように整理してほしい。

(3) 「第3次紀の川市長期総合計画ご意見シート」について

※事務局より会議内容（3）「第3次紀の川市長期総合計画ご意見シート」について説明した。

【委員】

2年前に紀の川市に移住し、キャンプ場やカフェを経営する会社を起業し、子育てもしている。子育て中の親としては、学校教育について、タブレット教育の廃止や給食への意見を記載した。また、移住者としては、山間部は郵便局がなくなったことと病院が遠いこと、移住してきてすぐに発生した水害で被災した道路や河川の復旧工事を迅速に対応してほしいことを記載した。経営者目線では、フルーツを買ってもらうだけでなく、さまざまな産業を組み合わせるコンテンツを売ることを検討してほしいと考えている。

【委員】

障害者の方や外国人も含めて、さまざまな人たちが集まり、地域コミュニティの活性化につながるような場所を作れたらと思い活動している。活動する中で、県や市で様々な支援を実施しているが、それぞれが連携できていないと感じており、総合計画の中で地域共生の内容について検討できればと考えている。

【事務局】

移住者の視点からご意見や、地域の連携についてのご意見をいただいた。大変参考になる意見に感謝申し上げます。

【委員】

和歌山県の総合計画では、海外の活力を取り込むことを打ち出している。県内でも、岩出市、紀の川市、白浜町の住民基本台帳の外国人人口の数値が増えており、今後も増加が見込まれる。生活していても外国人が増加していることを実感している。

【事務局】

和歌山県の行政の視点から貴重なご意見をいただいた。

【委員】

紀の川市だけで観光振興は難しいため、地域DMOの連携が必要と考えている。また、フルーツ王国としての更なる認知度向上、観光資源の高付加価値化・ブランディング、観光振興組織との連携強化、交流人口の増加と関係人口、定住人口の増加、観光客が利用しやすい二次交通の整備、耕作放棄地などの土地の有効活用などに取り組む必要がある。

【事務局】

紀の川市の地域資源や資産の活用についてのご意見をいただいた。

【委員】

子育て支援や定住促進策について、紀の川市は近隣の他市町村と比較して優れているため、よい印象を持つ方が多い。また、打田地区に住みたいと考える方が多く、特に小学校周辺を望む方が多い。

飲食店などについては、国道24号線に発展の余地があるものの、公共の下水道の整備が進んでいないことから、岩出市での出店が多くなっている。今後を見据えて現状や短期的な課題解決だけでなく将来の紀の川市を考えたい。

【事務局】

都市計画、開発について、現場目線からのご意見をいただいた。将来に向けての考え方も示していければと考えている。

【委員】

子どもや高齢者の利用を考慮し、市民の安心安全のため小学校にも空調を設備してほしい。また、給食費の補助について、紀の川市外の学校に通学している家庭に対する給食費支給ではなく、こども食堂のような施設への支援を行う方が、市民からの理解は得やすいのではないかと考えている。加えて、高齢者の方がデジタルを使いこなせるきっかけになるように、マイナンバーカードの利用継続と拡充を進め、デジタル化推進に取り組んでほしい。

【事務局】

学校や教育現場の意見、デジタルに関する意見と、さまざまな分野の意見をいただいた。

【委員】

紀の川市の農業従事者は高齢化が進んでいる状況にある。食料自給率の調査などにも関わった経験があり、事務局や委員の皆さんのご意見を参考にして、総合計画策定に向けて頑張りたい。

【事務局】

農業関連の施策や取組について、今後の審議の中でご意見ご指導いただきたい。

【委員】

人口等の実態について、旧町の詳細な実態について自治区長から意見を聞くなど、モニタリングのような対応が必要だと考える。また、他県で移住者が多い地域はさまざまなサービスや支援を実施していることから、そのような地域の事例を参考にしてほしい。小学生や中学生からもユニークで斬新な意見が出ているため、多世代の意見を聞いた方がよいと考えている。

【事務局】

旧町単位の人口の増減の分析なども実施できればと思う。また、小中高生の若い意見を反映できるよう、参画の機会を検討している。それらの計画や結果について、今後共有できればと考えている。

【委員】

フルーツ王国紀の川市として認知度が上がり、移住、定住人口が増えることを望む。

【委員】

金融機関からの観点として、産業・交流分野で事業承継や人材不足の問題がある。海外の活力を取り入れ、外国人の雇用促進が必要であるが、市民アンケートでは、現在の紀の川市のイメージ、未来の紀の川市のイメージともに、「国際交流・多文化共生」に関する項目が最下位付近になっている。反対意見も非常に多いと思うが、避けては通れない取組であるため、議論を進めてほしい。

【事務局】

紀の川市外から見た意見は貴重であるうえ、産業や地域防災などの面からも外国人についての議論は必要である。今後、議論を進めていきたい。

【委員】

紀の川市に住み始めた人が最後まで住み続けられるまちにしたい。ベースは「安心・安全な紀の川市」であり、防災や医療・福祉、交通インフラなど、単身高齢者であっても住みやすいまちを考えると、人口維持が大事であるとする。転入人口の増加、子育て支援、雇用を創出する産業の育成に取り組んでほしい。

コロナ前までは紀の川市に残りたいと回答する学生が多かったが、リモートになって減少したため、住み続けたい学生を育てていきたい。行政としても、DX推進などに予算を使用し、テレワークを推進することで住み続けたい人が増えれば考える。

【事務局】

デジタル化推進も含めて、取組・予算の選択と集中を計画策定の大きなテーマとしている。今後の審議会で議論が進むようにご助力をお願いしたい。

【委員】

紀の川市の看板は、世界の医聖、華岡青洲顕彰である。華岡青洲顕彰の功績を活用して、医療、教育、観光などの分野を活性化させたい。紀の川市として華岡青洲顕彰大綱を作成し、世界的な研究機構の拠点として位置付けてPRしていきたい。

【事務局】

雨の中、青洲祭りも開催でき、華岡青洲顕彰は貴重な地域資源となっている。今後も地域資源として積極的に活用していかなければならないと考えている。

【委員】

元保育士として、市政報告会で保育所に触れられなかったのが遺憾である。災害に強い紀の川市になるため、保育所の統廃合を実施し、耐震化基準を満たす保育所を建設して安心できる保育をしてほしい。

また、医療・福祉について、障がい者や障がい児も安心して預けられる福祉施設をつくってほしい。加えて、現在の病院は十分な活動をしていないと考えている。

【事務局】

事務局でも、障がい者、障がい児の支援には、地域、行政、医療・福祉の連携が重要であるという認識を持っている。対応等を議論していく必要があると考えさせられた。

【委員】

基礎調査報告書を見ると、市町村と比較して第一次産業の値が高くなっており、紀の川市の特色であるため、第一次産業を伸ばす施策が必要である。第一次産業で生産した食品を、どのように加工して商品化するのかという取組が弱いと感じる。総合計画では、JAや近畿大学の力を借りて新しい加工品づくりを行うなど、具体的に力を合わせて取り組む方向性を示してほしい。

【事務局】

紀の川市の特色である農業に関して、第六次産業化を含めた連携や研究の方向性を示せたらよいというご意見をいただいた。現在、紀の川市で実施している事業等についても、今後の議論でご意見いただければと思う。

【委員】

市民アンケートでは、「地域で支え合い、安心して暮らせる」と回答した割合が50%を超えていたが、地域での支え合い、助け合う、共助の活動ができていないと考えている。次期総合計画では、共助の考えを含めた、地域コミュニティの活性化、地域コミュニティの維持を自分事として考えることを呼び掛けてほしい。

農業振興や商工業振興についても、行政がコントロールして事業承継の取組を拡充してほしい。

【事務局】

地域コミュニティの活性化は、安心・安全の分野だけでなく、事業承継についても重要な問題であると認識している。今後の審議会で様々ご提言を賜りたい。

【委員】

住んでいる粉河地区についての意見が主である。空き地や空き家が増加し、空き巣や孤独死が発生しているため、再開発が必要であると考えている。また、荒れ地が多くなりイノシシが現れている。

教育面は、小学校の統廃合により通学距離やスクールバスの乗車時間が長くなるなど、低学年ほど児童の負担が増加したり、こどもの送迎で親の負担が増加することが考えられる。特別な配慮が必要な児童への対応は、専門性のある職員を増員し、教員の負担を減らしてほしい。

循環バスの利用者がほとんどいないことや地域によってバスの本数に差があるため、是正が必要と考えている。また、清掃活動や自治会活動が低調になってきていることも懸念点である。

【事務局】

空き地、空き家の増加、配慮を必要とする児童の増加、公共交通など、幅広い意見をいただいた。

【委員】

和歌山県海南市に4年住んでおり、紀の川市外からの視点で、紀の川市の住民にとっては当たり前のことでも、他自治体では当たり前ではないということを指摘できればと考えている。

自然や歴史文化など、紀の川市の素晴らしいものを活かしてほしい。また、防災や農業の両面において他自治体よりポテンシャルを秘めた自治体であるため、活性化に向けて取り組んでほしい。

【会長】

本日いただいたご意見についても議事録にまとめる予定であり、時間の都合上発言しきれなかった項目等あれば、次回議事録を確認いただく際に加筆・修正にご協力いただければと思う。

(4) ワークショップについて

※事務局より会議内容（4）「ワークショップ」について説明した。

【委員】

第1回市民共創ワークショップに参加したところ、紀の川市のことはあまり知らない中で、様々な意見が出て市民の方の考えていることを知ることができた。雇用面や働く場所について、高学歴学生の就職先について気にされている方も多く、印象に残った。

【委員】

アンケートは全学年で実施し、子どもたちが住んでいるまちについて考えるよい機会だったと考えている。今後は、市長への提言をしたい生徒たちが、学校の代表として集まって意見を交換する予定であり、面白い取組であると感じた。

【事務局】

市民共創ワークショップは12月13日（土）、こども未来会議は12月20日（土）に市長への提言を予定している。今後、審議会でも、各ワークショップから出た意見等を共有させていただく。

【委員】

こども未来会議で、生徒が市長に提言する場を見学することは可能か確認したい。

【事務局】

都合がよい方はぜひ見学にいただきたい。日時等の詳細な内容は事前に事務局に問い合わせていただきたい。

(5) 今後のスケジュールについて

※事務局より会議内容（5）「今後のスケジュール」について説明した。

(6) その他

【事務局】

現在、和歌山県の総合計画原案がパブリックコメント期間であり、今回の審議会で提示した概要版でなく、原案が掲載されているため確認いただきたい。紀の川市としても参考にしていきたいと考えている。長時間の審議感謝を申し上げる。

【委員】

基本構想素案の策定の際には、なぜその基本構想になるのかという、基本構想の考え方をに入れてほしい。紀の川市の偉人や先人が築いてきた軌跡を残して、これからの道を探してほしい。

【会長】

長時間にわたる審議に感謝申し上げる。本日用意していた議事はすべて終了したため、進行を事務局にお返りする。

3. 閉会

【企画部長】

お忙しい中ご協力いただき感謝を申し上げる。基本構想の策定が本格化しており、市民アンケートや各種

ワークショップも進行している。今後も市民の皆様からの意見を反映させた策定を進める。委員の皆さまには引き続きご協力をお願いする。

以上